



まっぶたつの先生

ある少女には夢を与え、別の少女からは希望を奪う。挫折した元教師と、大人になった教え子たち。図らずもその人生は交錯し、時計の針が動き出す。

木村紅美著 (中央公論新社)



ウエディングドレス

戦中から戦後の高度成長期にかけて、偏見と因習に抗いながら、今日のプライダスタイルをこの国に根付かせた奇跡の歩み。東京、京都、姫路、パリ、そして大阪を舞台に、結婚式を変えた女たちを描く。

玉岡かおる著 (幻冬舎)



貧困 子供のSOS

貧しさから進学をあきらめる子や、食事も満足にとれない子がいる。家庭の経済状況で、子供の未来が左右されない社会を作るにはどうすべきか。『読売新聞』連載に、「記者ノート」現場キヤップから等を加えて単行本化。

読売新聞社会部著 (中央公論新社)



児童書

とらねじりたとなつのおみ

海に行ったことがない、とら猫のとらたのために、海と船と魚の絵を画用紙に描いてあげたチイばあちゃん。すると、とらが絵の中に入ってしまった！チイばあちゃんも、いつの間にか船の上に立ってていて…。

広瀬弦 絵 (PHP研究所)

豊山俳句クラブ

青山克己選

- 水無月の風の湿りをまとひけり 坪井径子
里は今紫陽花色に染まりける 安藤春一
麦秋の風のかほりに紛れけり 青山とも子
時刻む緩やかなりし下り坂 水野真弓
木陰にて風さわやかに待ちをりぬ 谷崎 琴
つゆ草やいまさら悔いることもなし 高木須磨子
桐の花空ぼんやりと曇りるる 田村多喜子
麦秋の木造校舎日曜日 坪井昭子
一枚を残し早苗田暮れゆけり 杉浦みどり
薔薇の香とふとすれちがふ小道かな 村上ゆり子
絵手紙や山の端をゆく麦の秋 小塚美枝
あげは蝶ゆびにたしかな命かな 石黒貴代子
すいすいと燕飛び交ふ伊賀路かな 杉本衿子
麦秋の風を孕んで宮の杜 岡島 齋
水草の水をくわへし鬼やんま 青山克己

豊山歌壇

水野笑子選

- 若沖の描ける雄鶏は猛々しく 荒川昌枝
純白の鳳凰かがやくばかり
植付けしジャガイモの上の初殻を 安藤定岳
カラスヒヨドリ散らして回る
花見とて二十一時のウオーキング 井上とよほ
夜桜巡りは足取り軽し
父母の遺伝子は確と継がれゆく 一柳千鶴子
吾が孫の住む遠き地にまで
料理上手でありし姑の法要なり 今日三十三回忌はらから集ひて 小出寿枝
大地震に苦しむ人ら居ながらも 榊田真寿美
原発稼働止める人無し
花水木蝶舞ふごとく咲き揃ひ 佐藤良子
狭庭明るめ風にゆれをり
母となり婆ちゃんとなり曾ばあに 愛しき赤子抱きて座しぬ 柴田満枝
美しき横顔の僧に魅せられし 我が身の未熟さ悲しくもあり 鈴木久子

編集後記

「地元の人が一番驚いているかもしれない」長野県阿智村の熊谷村長のお言葉である。特集で「紹介した」星空ナイトツアーは、最近テレビなどでも取り上げられる程の人気だ。阿智村に暮らしている人にとっては当たり前。本当にこれでお客さんが来るのか、と半信半疑な人も多かったそう。それが今や多い日だと一晩で二千人以上が集まる。そこには、強みを活かすための試行錯誤があった。確かに、満天の星空はそれだけで十分魅力的である。しかし、空はいつも晴れわたっているわけではない。曇りの日もあるし、月明かりが星を見づらくする日もある。そんな日も村の星空ガイドの方々の熱のこもった解説や、天体望遠鏡による月面観測会で楽しませる。阿智に活気が出てきたと感じる村民は多いようだ。阿智村は、強みを活かす術を皆で考えたからこそその結果である。この執意こそが、本当の強みなのかもしれない。▼本町にも、国産ジエツト旅客機の製造拠点という日本でここしかないものがある。強みを活かす試行錯誤をして、光り輝かせたい。